

奈良高専におけるグローバル化と国際交流

最近、国際化に代ってグローバル化という言葉をよく耳にしますが、その違いは何でしょうか？文化や経済面で外国との結びつきを強めることが国際化で、国境を越えた世界的視野で文化や経済等を捉えることがグローバル化だという考えが一般的です。例えば、企業の海外展開は産業の国際化の例ですが、グローバルエンジニアとは、国籍、人種、言語、性別などに関係なく人々と意思疎通して信頼関係を築きながら活躍できる技術者であると言えます。実際には、国際化とグローバル化を区別することは難しいですが、教育機関の国際化にも、グローバル化の観点が重要になっていることは事実です。

本校では平成18年に国際交流促進委員会を発足させ、海外交流を通じた国際化を本格的にスタートさせました。専攻科生は学術研究交流、本科生は文化学術交流を中心に、毎年30名弱の学生を諸外国の教育機関に派遣しています。過去5年間の活動(表1)では、シンガポールのポリテクニク(ポリテク)への短期派遣(写真1、2)が最も多くなっています。シンガポールは淡路島程度の小さな島国ですが、近代的な経済立国であると同時に技術者教育に力が注がれており、その狭い国土にポリテクと呼ばれる15,000人規模(奈良高専の10倍以上)の3年制の技術者教育機関が5校も設置されています。各ポリテクでは高専生と同年齢層の学生がプロを目指して勉学に励んでおり、本校のグローバル教育のパートナーとしてふさわしい教育機関に位置づけることができます。実際、ポリテク生との交流を経験した学生の多くは、英語によるコミュニケーションの魅力に気付き、グローバルエンジニアを目指してくれています。

昨年度は、海外派遣以外の新たな取り組みとして海外の学生を本校に受入れての交流プログラムを企画しました。シンガポールのナンヤンポリテク生ら32名が3月13日から1週間本校を訪問し、現4年の学生およそ20名と文化学術交流を行いました。学内だけでなく、企業見学や奈良文化の紹介なども実施され、充実した交流会となりました(写真3)。他にも、学外公的機関が企画した中国や台湾との交流

表1 過去5年間の学生の国際交流活動(海外派遣・受入れ)

年	派遣国	派遣機関	期間	派遣人数
2008 9名	Korea	釜山大学	4日	専攻科2名 本科1名
	Taiwan	台湾大学、淡江大学	5日	専攻科6名
2009 18名	China	燕山大学	4日	専攻科6名
	Singapore	ポリテクニク テマセク・シンガポール	5日	本科12名
2010 28名	Canada	トロント大学	9日	専攻科4名
	Singapore	SIMTech、 ナンヤン工科大学	4日	専攻科4名
	Singapore	ポリテクニク テマセク・シンガポール	6日	専攻科4名 本科16名
2011 26名	Korea	忠北国立大学	5日	専攻科3名
	NZ	オークランド大学	7日	専攻科2名
	Singapore	ポリテクニク テマセク・シンガポール	6日	専攻科2名 本科18名
	Other	ISTS(1)		専攻科1名
2012 25名	Singapore	ポリテクニク テマセク・ナンヤン	6日	専攻科2名 本科18名
	Other	中国(1)、台湾(1)、 日中交流(4)、ISTS(3)		専攻科5名 本科4名(国内)
	学内	ナンヤンポリテクニク	5日	30名

事業にも積極的に応募した学生もあり、3件が採択されて6名の学生が日本代表として国際交流事業に参加しました。Campus2012(Autumn)に報告が掲載されています。ぜひ読んでみてください。

現在、国立高等専門学校機構では、シンガポールの5ポリテク以外に4カ国(タイ、香港、台湾、インドネシア)8教育機関と包括交流協定を締結しています。今年の9月25-27日、本校が世話校になって奈良県新公会堂で開催される技術者教育に関する国際シンポジウム(ISATE2013)に、これらの教育機関の教員が参集することになっています。本校では、このような機会を活かして各教育機関との連携を一層密にし、新たな交流プログラムの構築とグローバル化の推進を図る予定です。

夏休み明けの9月3日、シンガポール派遣学生および受入プログラム参加学生による平成24年度国際交流報告会と平成25年度国際交流説明会が開催されます。グローバルエンジニアを目指す学生諸君の積極的な参加を期待します。英語ができることが国際化やグローバル化ではなく、英語ができることが前提の時代を迎えます。時代を先取りしていきましょう。



写真1 ナンヤン ポリテクニクでのウェルカムセレモニー



写真2 テマセク ポリテクニク正面玄関にて



写真3 ナンヤン ポリテクニク生の本校訪問